



映画評論家 清水節さん「キャロル」

高級デパートで働くテレーズは、クリスマスを間近に控えて賑わう売り場で美しい女性に目を奪われる。その女性の名はキャロル。一瞬でキャロルに憧れを持ったテレーズは、販売した商品をきっかけに急速に距離を縮めていくが、キャロルは不幸な結婚と偽りの人生に身を置く、悲しみに包まれた女性だった…。

名女優の共演で綴る狂おしい愛の物語

映画「キャロル」は狂おしい愛の物語。
原作はパトリシア・ハイスミスが別名義で発表した、禁断のベストセラー。

1950年代始めのニューヨーク、その片隅で生きる優雅な人妻テレーズと、明日が見えない若き女性キャロル。エレガントとピュア、成熟と情熱。運命は対照的な二人を引き合わせ、隔たりは思いを育み、密かな決意がさざ波を起こします。

二人の関係性が変化していく様は実にスリリングです。

身につける衣装やその色彩は彼女達の内面をあらわし、佇まいを切り取るカメラはアートの域に達しています。

名女優ケイト・ブランシェットとルーニー・マーラの美しさが香り立ちます。

「キャロル」は、TOHOシネマズ 六本木ヒルズにて絶賛上映中です。

▶ TOHOシネマズ 六本木ヒルズ



TOHOシネマズ 六本木ヒルズ

(2016.02.23)

法律で禁じられたタブーを描く

1950年代ニューヨークを舞台に女性同士の美しい恋を描いた恋愛映画。

原作は「太陽がいっぱい」の著者、パトリシア・ハイスミスが1952年に出版した「The Price of Sal」。この作品は彼女自身の体験を基に書かれたが、当時は女性同士の恋愛自体が法律で禁じられていたため、彼女はこの原作を別名義の《クレア・モーガン》で出版。30年後に自らが執筆者であることを公表して話題を読んだ、曰く付きの作品です。

本作でテレーズを演じるルーニー・マーラは、第68回カンヌ国際映画祭の女優賞を受賞。さらに本年度のアカデミー賞でも主演女優賞、助演女優賞を始め全6部門でノミネートされている。2月29日のアカデミー賞で何部門受賞するのか。劇場で予想してみてはいかがだろうか。

プロフィール



映画評論家・クリエイティブディレクター。1962年東京生まれ。共著書に新潮新書「スター・ウォーズ学」。企画・構成原案・取材を担当したWOWOW「ノンフィクションW 撮影監督ハリー三村のヒロシマ」でギャラクシー賞受賞。